

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2375700610		
法人名	有限会社 福田サービス		
事業所名	内海ホーム気まま		
所在地	愛知県知多郡南知多町大字内海字城下64-1		
自己評価作成日	平成24年12月17日	評価結果市町村受理日	平成25年2月5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭的な雰囲気を作り、一人一人の希望に合った生活(外出レク・お菓子づくりなど)を自由に送ってもらい、支援している。  
 ・一人一人の残存能力を活かし、家事手伝いや運動をしてもらい、支援している。  
 ・皆さんが仲良く安心して生活できるように支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=2375700610-00&PrefCd=23&VersionCd=022](http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2375700610-00&PrefCd=23&VersionCd=022)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成24年12月25日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、グループホームの他にも介護タクシーや有料老人ホームを展開しており、地域で様々なニーズを持った方への支援を行っており、代表者の目指している支援が盛り込まれている。その思いは、ホームでの看取り支援にあらわれており、ホームでは、これまでに多くの方を看取っている。さらに、家族に対する書類にも、看取りについて「快く」引き受けるという言葉が明記してあることで、家族にとって安心であり、大切な親族を最期まで委ねることができるホームである。また、ホームでは、医療面での支援にも力を入れ、提携医とは深夜でも対応してもらえる体制を整え、同時に代表者もすぐに対応できるようにしており、職員にとっても重度化に対応したケアを身に付ける機会になっている。このことは、結果として職員の資質向上につながっていると見える。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安らぎここにあり、気ままな暮らし」を理念とし、「年を重ねた(重ねてきた方)の今までの頑張りをねぎらい、わがままを通してあげて」とスタッフに伝え、管理者自らケア、指導に取り組んでいる。スタッフには一人一人に、理念を書いた書面を渡し目を通すように促している。常に理念がとぎれないように玄関からいたるところに理念が貼ってある。	職員は、代表者の介護経験から作られた理念を共有・理解し、日々のケアで実践している。職員は、理念の内容を理解しながら、利用者一人ひとりの要望を聴き、時間の許す限り、傍らに寄り添い、居心地の良い生活ができるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏の花火大会、敬老会(利用者さん参加)、太鼓まつりや近所の施設の夏祭りに参加している。	町内会に加入し、海開き前の清掃活動や花火大会、地域の祭りに参加している。また、ヘルパー2級の講習会を開催し、学生や地元の人達が受講したり、AEDの講習やハーモニカのボランティアも訪問している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏休みには地域の中学生、大学生のボランティアの受け入れを行っている。事業所にホームヘルパー2級の受講生を受け入れたり、他のヘルパー養成所の実習生を受け入れている。施設長、管理者、スタッフは地域の認知症高齢者を理解する学習、予防法等、勉強会に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、地域の区長、身体傷害者福祉会役員、町会議員、役場担当者、管理者、スタッフが参加し、年6回行っている。運営会議はお互いに理解を深めていく意義がある。	会議では参加者から地域の情報を得たり、ホームからの行事報告、利用者の状況、新人職員の報告を行い、ホームへの理解を深めて頂いている。また、今年度、会議の委員を増やしたことで、より活発な話し合いが行われるようになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設内にて日時を決め、市長村担当者の都合を聞き、来訪していただき、運営推進会議を行っている。また、地域の大学にて勉強会、町内の体育館等の施設が開放される行事、勉強会に参加している。	代表者は、町主催の連絡会議に出席している他、町担当者が変更になったこともあり、役場との関係がより良くなるように、連携を密にして協力関係を築く取り組みを続けている。また、地域の福祉大学と町主催の講習会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」の研修を行っている。不穏時で出て行こうとされる利用者と一緒に散歩に行き、落ち着いた頃に戻ってくる等の指導は、施設長よりされている。言葉での制止も拘束の一つと考え、利用者にとストレスを与えないよう気配り、言葉使いに配慮している。	ホームでは、基本的に身体拘束をしない方針であり、言葉による拘束や新人職員にも注意を促し、職員同士でも気を付けている。また、ホーム玄関は施錠しておらず、利用者が落ち着かないような素振りの方へは、一緒に出掛けるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についてマニュアルをスタッフは目を通し常に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度、独身の利用者、伴侶を亡くされお一人になられた利用者については、個々に話し合い、活用できるよう支援を行っている。利用者には独身の方もまれにいらっしゃる、血縁者の方も少なく、弁護士にも入っていただき支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書は分かりやすく明記している。入所者の受け入れを施設長、管理者が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付担当者は、重要事項説明書に明記にてある。職員が受けた場合は書面に残し報告を行う。また、利用者さんとの会話の中で意見を聞き、業務日誌に記載し、スタッフ間で情報を共有している。利用者によっては要望等あっても口に出さないケースが多々あると思われるので、利用者とのコミュニケーションに重点を置き、なるべく多くの利用者の要望等を組みとって運営に反映させる。利用者のニーズを聞き、外出等の機会を作って実行している。また、家族の方が来所された時にも挨拶等、笑顔でその職員もコミュニケーションをとり話しやすい雰囲気を作っている。	ホームでは、家族の来所時には、主に代表者が対応することで、責任の所在を明確にするようにしている。利用者、家族から把握した内容については、職員会議等で共有するように努めている。また、ホーム便りを隔月毎に発行している。	今後に向けて、ホームで、家族が交流する場を設けることで、家族が職員のことを知ってもらうことなど、ホームへの理解をより深めてもらうための取り組みにも期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務日誌に職員の意見を記入することができ、それを通して管理者はスタッフの意見を聞いている。いつでもスタッフが困っているときは駆けつけ、スタッフも気軽に言える関係にある。	ホームでは、代表者が現場に入ることもあり、職員の様子を見ながら、気が付いた際には代表者から職員に声をかけ、随時、個人面談するように努めている。また、個人面談の機会を年1回つくっている。	現状、代表者が責任者として統括しているが、今後の展開に向けて、ホーム管理者をはじめ、職員の役割が増えていくような取り組みにも期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤した際には業務日誌等に記入し、それに対し施設長や管理者がアドバイスをやっている。運営者は組織間の親密さが「向上心を持って働き続ける」ためには必要であると考えているのでそれを実践している。施設長も管理者も気軽にスタッフに声かけし意思疎通を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフがチームの一員として研修、会議等の参加の機会を与えられている。研修後は報告を行う。研修計画は施設長が行う。施設ではできる限り職員が集まれる機会を作り先輩スタッフが新任スタッフに必要な知識、技能を伝えるようにしている。さらにスタッフには外部の講演会等に参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡協議会に加盟している。地域ボランティア受け入れの際、町の社会福祉協議会の来訪があり、事前説明等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでの間に何度か電話や訪問等行い、話を伺っている。また、施設にも来訪していただき、話を伺っている。アセスメントに記入し、それをスタッフが共有している。新しい情報も業務日誌等に記入し、共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでの間に何度か電話や訪問等行い、話を伺っている。また、施設にも来訪していただき、話を伺っている。アセスメント表に記入し、それをスタッフが共有している。新しい情報も業務日誌等に記入し、共有できるようにしている。その都度話を聞いていき内容を書き留めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	業務日誌にて改善策等を記入し行っている。すぐにできないような内容の場合は施設長や管理者と相談しながら、進めている。スタッフ同士でも合間に話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に過ごしたり、本人の個性、興味のある物、好きな物等を把握し、それを引き出せるよう支援している。不安、苦しみなどの気持ちを受け止める。掃除や洗濯干し、取り込みなど手伝っていただいている。一方的な介護にならないようにスタッフ同士で理念を確認しあい話し合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にホーム新聞を発送したり、来訪された際に情報交換を行っている。利用者の様子や写真等を発送している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望があれば電話などをしている。また、馴染みの場所(回転寿司・寺巡り・近所の旅館の足浴場・近所の公園の展望台)へ行ったりしている。	ホームには、地元の利用者が多いこともあり、親族をはじめ、友人、知人が訪ねて来ることがある。さらに、馴染みのある知多八十八か所の地域でもあるためお寺参りをしたり、近くの神社にも出掛けている。また、お墓参りに出かける方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を一つのテーブルで皆さんと一緒に職員も入り、会話をしながら食べている。利用者同士がより親しく関わりをもてるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等をしたときは、お見舞いに行ったり、家族の方には電話連絡を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お風呂などは毎日入りたい人は、入りたい時に入らせていただいている。なかなか難しいときもあるが、できるだけご本人の意思を尊重できるようにしている。	職員は、利用者の中でも会話のできる方とは、居室等で寛げる時間などに聴いている。逆に、言葉が思うように出ない方には、表情や仕草などから察して、複数の選択肢を伝えて、利用者の意向に添うように努め、職員間で共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から情報もらい、スタッフ全員に資料に目を通してもらったり、ミーティングを行っている。アセスメント表を記入し、多くの情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何か気が付いたことがあったら、業務日誌に記入し、それをスタッフが見るようにしている。また、口答でも申し送りをしてスタッフ全員が共有できるようにしている。業務日誌や個人記録への記入を行い、スタッフは目を通し、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフが話を聞いて作成している。必要に応じて介護計画の見直しを行っている。一ヶ月に一回モニタリングを行い、期間に応じて作成している。業務日報、個人記録だけではなく、スタッフからも話を聞きながら、モニタリングを行っている。	月1回のモニタリングには、原則全職員が出席し、介護計画を6か月毎に見直している。追加、修正がある場合には、留意点や家族の要望等を計画書の写しに赤ペンで書き足し、職員はそれを確認して情報を把握している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録があり、毎日記入し情報を共有している。業務日誌や個人記録を見直し役立てている。個人記録や業務日誌にて情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期入所が始まったので、その時々々の要望に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防職員に来訪していただき、消防訓練を行っている。ヘルパーの実習、地域ボランティアを積極的に受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	トータルサポートクリニックの医師と連携し、眼科は月1回内科は毎週1回医師が往診し、毎週1回看護師が来訪している。24時間連絡可能で夜間往診も行っている。主治医が異なる場合は家族が対応している。	ホーム提携医は、週に一度の往診であるが、緊急の場合には、24時間体制で医師の指示を仰ぐことができる体制で、医療面での手厚い支援が受けられる。また、入居以前からのかかりつけ医の通院は、基本家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が来訪し、バイタル、様子、辱そうの処置などを診ている。困った時はそのときに電話連絡をしている。利用者の状況に応じて柔軟かつ迅速に相談が出来る様体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には介護サマリー等で情報を伝えている。退院時には、様子などを主治医に連絡してもらい、退院後も安心してできるように主治医に連絡を入れてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望がある場合、最後まで看取どけることをスタッフ全員で共有している。機械があるごとに再度スタッフ同士で話し合いをしている。これまで、看取りを実践してきた実績を生かして協力医との連携及びアドバイスをもとにできる限り重度や終末期を迎えても本人、家族の望む暮らしをかなえている。施設長より、ご家族に連絡をし、協力医のもとに方針を決めている。管理者が待機し、すぐに動ける体制をとっている。	ホームでは、入居時に重度化した場合の対応に係わる指針を提示して同意を得ている。多くの家族から、ホームでの看取りを要望され、ホーム側も快く受け入れている。その為に、提携医、看護師との24時間連携が取れる態勢を構築しており、何度も家族の意思を確認して、対応を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で行われている。非常時の場合、施設長、管理者が医師と連携が取れるように対応している。毎週、訪問する看護師にその都度習っている。初期対応マニュアル、連絡先をいつでも見られるところに貼ってある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。関係機関に挨拶等をしていて協力が得られている。運営推進会議でも地域の人々と話し合いをして協力が得られている。	避難訓練の際には、階段を降りる訓練も行っている。夜間1人であるが、代表者が近くに住んでおり、すぐに駆けつけることができる。また、近隣の住民とも協力関係を築くようにしており、災害時には、相互で協力し合える関係である。	ホームが高齢者の有料老人ホームを併設していることもあり、今後も夜間を想定した訓練を実施されたい。さらに、災害時に必要な水、食品確保にも取り組みを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家庭的な雰囲気や壊さぬよう、また、利用者さんを傷つけないように言葉、態度には気をつけている。研修などを通して再認識している。	ホーム内に「宝塚ブス25か条」という戒めの言葉を貼っておくことで、日頃から職員は、利用者に対する言葉遣い等を意識するように取り組んでいる。代表者は、職員の気になる言動があった場合には、随時注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方的に決めず「～しますか?」「～でいいですか?」等本人の意志に委ねるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な生活をして頂いている。就寝時間や入浴時間など。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく自分で服を選んでもらっている。スタッフに理容資格がある方がいるので、切ってもらっている。意思決定があまり見られない利用者についても一緒に考える、いろいろな服を並べて聞いて見る等、少しでも利用者の意思決定がみられるように努める。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は量や召し上がられるだけ、一人一人の食欲に合わせている。おかわりをされる場合も声掛けを行っている。食器拭きを行っている。定期的にメニューなどのアンケートを実施することで、好き嫌いを把握している。	朝食とご飯はホームで作るが、昼と夕食は、関連ホームで利用者の嗜好にも配慮を行いながら調理を行い、提供している。利用者の中には、テーブル拭きや食器拭きをする方がおり、食事は職員も利用者と一緒に食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日に必要な食事量、バランス、水分量を確認しそれを参考にお一人お一人の状態に合わせた支援をしている。また、スタッフ間の申し送り、記録に反映させている。咀嚼の悪い方には、刻み食やおかゆにして対応している。アレルギーや嫌いな物で、食べて体調が悪くなる物がある人に対しては、代替りの物を出して食べてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	マニュアルと研修を行い、スタッフに理解を促している。食後の口腔ケアを促したり入れ歯の消毒をしている。口腔ケアをさせていただけるような働きかけを研修を通して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄記録をつけ、排泄パターンを確認し、介助を行っている。さりげなくトイレ誘導を行っている。できる限り、トイレでの排泄が行えるように排泄パターンを確認しながら行っている。	職員は、排泄チェックを行いながら、利用者の様子を見ながら声をかけて、トイレでの排泄を目指している。また、紙パンツやオムツや夜間のポータブルトイレの使用等、その人に合わせた支援をすることで、自然な排泄を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に定期的に必要な水分を確実にとって頂いている。食事は普段の生活がストレスがないよう配慮している。歩ける人には、便秘にならないように洗濯物干しを手伝ってもらったり、室内を歩いてもらったりと、声かけをして動いてもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午前中に行っているが、希望があれば好きな時間に入らせていただいている。入浴拒否をされる方もおられるが、無理強いせず、声かけ等工夫しながら入浴を促している。	ホームでは、週2日以上で毎日入浴している方もいるが、1日3~4人程度の方が入浴している。入浴を拒む方には、声かけを工夫しながら、入浴につなげている。また、菖蒲湯等の季節の楽しみもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の温度に合わせてエアコン調整を行っている。天気の良い日は布団を干したりしている。夜間は定期的に巡視を行ない、布団をかけている。ある程度の時間になるとリビングの電気を消すが電気を消すことが、利用者には「寝なければならない」という、ある意味圧力的な気持ちを与えないように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録及び業務日誌にて服薬方法が変わったり症状の変化に応じて情報の共有を行っている。お一人お一人の薬箱で飲み忘れ、飲みすぎのないよう職員が管理している。体調不良の際、気になるときは医師に連絡をし服薬内容、方法、指示を受けながら服薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の手伝い(食器拭き、洗濯たたみ、おかず盛り付け)をしていただいている。季節に合わせて外出をしている。役割分担して日常生活に関わって頂くことで自信をとりもどす配慮を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なるべく天気のいい日は近所まで散歩をしたり馴染みのある場所へドライブに出かけ、季節感を感じてもらっている。スタッフの人数により少人数での外出になっている。	ホームでは、日々の散歩に出かけており、時には片道20分程をゆっくり歩いて散歩を楽しんだり、買い物に出掛けることもある。さらに、季節の花見に出かけたり、職員で外出を企画して、ホームから出掛けられるように支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームが立て替えを行っているが、お金を持つことで安心感を抱く方には少額もって頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話については、子機を使用し居室などで対応している。利用者からの要望があるときも施設の電話で対応している。手紙等もご本人にお渡しし開封などが難しい場合は、お手伝いしている。プライバシーに配慮しながら家族のつながりを大切にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りをしたり散歩やドライブでの写真を飾っている。時々音楽も流している。換気などもこまめに行い、こもった感じにならないようにしている。季節の飾りや音楽などで明るい雰囲気作りをしている。	リビングは居室に囲まれているため、日光は入りにくい为天窓があるため、採光にも配慮された環境である。また、ホームでは、利用者の様子から、リビングのソファを利用者がよりゆったりと過ごすことができるように取り替えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビにソファを設置し皆で観たりできるようにしている。所々にイスを設置し、一人で座り、外を眺めたりできるようにしている。外出した際の写真や作品などを壁などに貼っている。食事の席は仲の良い利用者が近くなるようにし、おやつ時間は好きな場所で召し上がっていただいている。写真や作品がずっと同じにならないように交換に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、利用者が愛用していた物を持ってきていただくようにしている。	居室内には、利用者が持ち込んだタンス、椅子、こたつ等、さらに家族の写真が貼られて、各居室に個性がある。また、居室の窓が全開にできるため、利用者がいない際には窓を開けて換気し、清潔な環境に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物自体バリアフリー構造になっている。利用者の行動を見ながら危険なものは撤去したり、撤去できないものは安全なように工夫している。また、階段等の使用で利用者の残存機能を生かしたり、機能訓練の場になったりと、自立した生活を支援している。トイレや居室等、分かりやすい表示をして、なおかつ声かけ等により、利用者が混乱しないように努めている。各居室には表札をかかげ分かりやすい様になっている。		

(別紙4(2))

事業所名 内海ホーム気まま

## 目標達成計画

作成日: 平成 24 年 12 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回、非常災害時の避難訓練が行われているが、日中のみでの想定訓練である。町内会の(区)名主や役員が参加し、近くの公園が避難場所になっている。ホームの場所が2階にあることも考え、避難方法の把握が重要だと考えられることから、夜間想定避難訓練が必要である。	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜問わず、利用者が非難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築く。	年1回、夜間想定避難訓練をする。 備蓄に排泄用品や食料を増加する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月